

松本市防災都市計画見直し案に対するパブリックコメント等の結果について

1 パブリックコメント

(1) 募集期間

令和4年5月26日（木）から令和4年6月24日（金）まで

(2) 閲覧方法

ア 市ホームページ

イ 窓口（都市計画課、行政情報コーナー、各地域づくりセンター）

(3) 実施結果

ア 件数

4件（2人）

イ 提出方法

（ア）ファクシミリ 3件（1人）

（イ）電子メール 1件（1人）

ウ 意見等に対する対応

区分	内容	件数
ア 反映する意見	意見等の内容を反映し、案を修正したもの	なし
イ 趣旨同一の意見	意見等の同趣旨の内容が既に案に盛り込まれているもの	3件
ウ 参考とする意見	案を修正はしないが、施策等の実施段階で参考とするもの	1件
エ 対応が困難な意見	対応が困難なもの	なし
オ その他	案の内容に関する質問等	なし

(4) 意見等の概要及び市の考え方

No	項目	意見等の概要	市の考え方
1	P71 施策2 「確実な避難の実施」	都市の防災力向上のためには、市民一人ひとりの災害リスクの認識が不可欠であり、そのためにもこの計画を広く市民の皆様に周知していただきたい。	【イ 趣旨同一の意見】 「防災教育や防災知識の普及」として、本計画をホームページで公開するとともに、各地区の自主防災リーダーを集めた説明会で、自助・共助の取り組みの一助となるよう、この計画を周知します。
2	P73 施策3 「流域治水の推進」	山間域の森林が防災にも役立つことを意識してもらうために、植樹などの森林整備による保水力向上が土砂崩れ防止に繋がることも記載してはどうか。	【イ 趣旨同一の意見】 「流域治水の推進」として、長野県流域治水推進計画で、土砂流出防止などの森林の多面的な機能を発揮するための森林の整備や保全を推進することとしています。

			また、「松本市森林整備計画」でも適正な森林整備を進めることとしています。
3	P1 背景	災害の甚大化が進む中、地球環境に負荷の掛からない生活を送ることが防災面でも大切だと考える。	【ウ 参考とする意見】 近年の地球温暖化による水害の頻発・激甚化を受けて本計画の改定を行っています。 主因となる地球温暖化については、令和2年12月に「松本市気候非常事態宣言」を表明しました。2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ（ゼロカーボンシティ）を目指し、環境に負荷の掛からない取組みを行うこととしています。
4	P1 目的	災害時にパニックにならないよう、小さな実践（個人個人の事前準備）と緩やかな繋がり（町会にとらわれない、昔ながらの近所付き合い）が日頃から重要と考える。	【イ 趣旨同一の意見】 防災都市づくりの担い手として、自助・共助の取組みを促進することを本計画の肝要としています。 ご意見のとおり、平時からの事前準備や近所付き合いが自助・共助の取組みを促進する礎となると説明していきます。

2 建設環境委員協議会

(1) 日時

令和4年5月24日

(2) 実施結果

ア 件数

5件

イ 意見等に対する対応

区分	内容	件数
ア 反映する意見	意見等の内容を反映し、案を修正したもの	2件
イ 趣旨同一の意見	意見等の同趣旨の内容が既に案に盛り込まれているもの	なし
ウ 参考とする意見	案を修正はしないが、施策等の実施段階で参考とするもの	3件
エ 対応が困難な意見	対応が困難なもの	なし
オ その他	案の内容に関する質問等	なし

(3) 意見等の概要及び市の考え方

№	項目	意見等の概要	市の考え方
1	P1 背景 P71 施策2 「確実な避難の実施」	的中率に課題が残るが、線状降水帯に関する迅速な周知は記載されているのか。 本文中「近年激甚化する・・・」に明記した方がよいのではないか。	【ア 反映する意見】 気象庁は線状降水帯の半日前予報を令和4年6月から運用開始しました。 「確実な早期避難のための連絡」として、市が発令する「避難情報」（防災行政無線、松本安心ネット、災害電話サービス、市公式SNSなど）で確実に伝達します。 別紙2のとおり、追記します。
2	P87 施策7 「〈水害版〉災害危険度判定の実施と市民への公表」	「3Dマップについて検討」とは、国土交通省で公開している「PLATEAU」の活用を進めると理解してよいか。	【ウ 参考とする意見】 「PLATEAU」は浸水想定深を理解しやすいことから、市ホームページでも周知しています。 まず、本年4月から運用を開始した公開型GIS（地図情報システム）の活用を考えています。
3	P1 背景	奈良井川水系の河川改修計画が1/80年確率なのに、1,000年に1度の大雨を検討すること自体が現実的でない。市民の不安を煽るだけではないか。	【ウ 参考とする意見】 水防法に基づき令和3年に各戸配布したハザードマップは、100年に1度及び1,000年に1度の大雨による洪水浸水想定区域を記載しています。 この計画は、国の指針に基づき、より具体的な災害対策を示すことで、適正な危機意識をもって、避難の確実性・迅速性を向上させるものです。
4	P72 施策3 「流域治水の推進」	雨水貯留槽設置の補助制度を整えて周知してはどうか。	【ウ 参考とする意見】 長野県流域治水推進計画で雨水貯留の取組みの一つとして各戸貯留施設設置費補助制度も挙げています。 各種雨水貯留の水害抑制への実効性を考慮し、補助制度について研究します。

5	P71 施策2 「確実な避難の実施」	中小河川でも危機管理型水位計が設置されていて誰でも確認できるようになっている。周知してはどうか。	【ア 反映する意見】 危機管理型水位計による「川の水位情報」が閲覧できることなど、「災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信」として、別紙2のとおり追記します。 また、気象庁は3時間以内に氾濫する可能性ある場合の「氾濫危険情報」を令和4年6月から運用開始しました。 「確実な早期避難のための連絡」として、市が発令する「避難情報」で確実に伝達することも周知します。
---	-------------------------------	---	--